

2022年度(令和4年度)ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月1日

事業所名 ああるレインボーDuo谷塚駅前教室

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9			人数が多い時や個別とグループを分ける際、仕切り等を活用している	集中できる活動の組み合わせを細かく考えて集中できるようにしていく
	2 職員の配置数は適切である	6		3	午後の個別指導に関しては、担当児童の時間のみの出勤をしたり、適切な配置数になるように工夫している	午前、午後、土曜日で負担が偏らないように人員配置を適切にしている
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		2	段差等は、対象者に合わせて、課題に取り入れれたり、フォローしたりしている	扉を交換したり、ケガにつながらない対策をした柱の緩衝材、床の張替、裏口の床の補修を実施予定で
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		1	毎日の清掃で清潔を心がけ、プログラムの中で児童にも掃除の練習の機会を作っている 児童自身が本棚から自由に本を選べるコーナーを作った	今後も室内の清潔な環境作りを継続していく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9			毎日の報告書作成時に、振り返りを行うようにしている	毎回の打ち合わせ、振り返り会議を今後も継続していく
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		1	保護者の意見を共有し改善に繋げている	今後も、保護者の意見を会議で共有して業務改善に繋げていく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1			会社のホームページで公表している
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	2			評価結果を共有していくようにする
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			社内で案内されている研修以外に個人で自主的に研修に参加している	それぞれが受講した研修や本を読んで得たことなどを、会議で共有し、支援に活かすことを今後も継続していく
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			定期的に行われたものをスタッフで共有している	今後もアセスメント表を作成し、スタッフが共有できるようにする
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	1	1	保護者がわかりやすい言葉を使用し、具体的な支援を明記するようにしている	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			計画策定会議を行い共有して支援に繋げている	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9			・グループごとに固定せず、他のグループの事をみんなで相談するようになっている ・みんなで相談してアイデアを出し合っている	余裕を持って次月のプログラムが作成できるよう、それぞれのグループの会議の日程を固定していく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			・個人活動に合わせた活動(電車に乗るなど)を取り入れて、外出先でのルールを学ぶなどたくさん取り入れている ・過去のを参考にしながらかぶらないようにしている ・楽しめるプログラムになるよう工夫している ・固定化してしまうプログラムの時は、内容に変化を持たせている	児童の課題に合ったプログラムがより楽しくできるように、課外活動などを多く取り入れていく
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	9			個別と集団の課題や支援方法を具体的に支援計画に入れて作成している	

2022年度(令和4年度)あるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			毎日必ず行っている。児童一人一人の近況などの共有を行っているリーダー、サブ、サブサブで業務の分担をしている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			・時間がしっかり取れないことがあるので、片付けや記録の時間にも話せるようにしている ・状況別になるが、細かく分かりやすく伝えるようにしている ・全員参加の話し合いがなかなかできないので、会議ノートを作っている	・午前中の支援後に、すぐに午後の支援の準備があるスタッフもいるので、隙間の時間を大事にして効率的に会議を行っていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			毎日記録を作成し、全員が見られる場所に掲示して共有している	記録がわかりやすく共有しやすくなるための工夫をしていく
	20	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9			定期的にもモニタリングを行っている	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			管理者や、支援担当者など、子どもの状況を把握している者が参加している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			相談支援事業所との関係を深め連携している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9			医療機関の担当医や子育て支援センターの専門士からの連絡を保護者から詳しく聞くようにしている	医療的ケアが必要な児童は利用していないが、情報として詳しく聞くように今後もしていきたい
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9			医療的ケアが必要かどうかをMSWと連携してりする機会を持っている	同上
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			保育園、幼稚園、小学校との児童の情報共有を行い連携を図っている	今後も関係性を深めて連携を図っていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			小学校からの問い合わせに丁寧に答え相互理解を図っている	今後も小学校との連携を深めていきたい
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9			連携を深め、研修を受けている	研修の機会を増やしていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4		5	幼稚園や保育園との職員間の連携を取っている公園やおでかけで地域との交流を図っている	コロナが落ち着いたら、触れ合える機会を作っていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3		6		地域の子育て会議に参加できるようにしていきたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			送迎の際、受け入れ振り返りの際、子どもの状況を聞き、支援課題に組み込んで相互理解を図っている	グループの振り返りの際にも児童の様子を聞いたりしていきたい
保護者	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	1	2	ペアトレは行っていないが、都度、相談・助言を行っている	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		1	契約時に説明したり、閲覧できるファイルを作っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			一人1人違ったそれぞれに合った計画を作成し、分かりやすい言葉で具体的に作成し、丁寧な提示をしている	今後もそれぞれの児童に合った計画作成を行い、保護者の希望を取り入れて同意してもらえらる計画を作成していく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			連絡帳アプリでの質問相談には即、返事をするようにしている。面談が必要な場合も近日常に機会を設けている	今後も、相談しやすい関係性を築き、保護者の負担を減らしていけるように信頼関係を築いていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2		7		グループ指導の保護者同士が連携できる機会などを考えていきたい

2022年度(令和4年度)あるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

口への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9			34と同様	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			月に一度おたよりを発行し、連絡や報告。児童の様子がわかりやすいように、グループごとに記入して保護者が読んで楽しいものに変えた	今後も、読みたくなる内容のおたよりを発行していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9			個人情報にかかわるものの持ち出しはしないようにしている 鍵付きのロッカーに保管している	個人情報保護により一層気をつけていく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			分かりやすい言葉や事例をあげて意思の疎通ができるように配慮している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2		7		コロナの影響もありできていない 保護者の希望があれば検討していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9			毎月、火事、地震、水害などの避難訓練を行っている	保護者にもっと詳しく周知できるようにしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			午前は月1回で行っている。午後はグループ指導で行うようになっている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9			アセスメント時に聞き取りを行い把握し共有している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9			検査資料を持参してもらい、細かく保護者から情報を得て、テーブルを離すなどの対応を徹底している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			その都度報告し、会議で共有して未然に防ぐようになっている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			会社の研修に全員参加している	最低、年に一回の研修を行っている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		1	虐待研修で話し合い、保護者に口頭で説明するようになっている	スタッフ間で共有していく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

2022年度(令和4年度)あるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月1日

事業所名 あるレインボーDuo谷塚駅前教室

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9			人数が多い時や個別とグループを分ける際、仕切り等を活用している	集中できる活動の組み合わせを細かく考えて集中できるようにしていく
	2 職員の配置数は適切である	6		3	午後の個別指導に関しては、担当児童の時間のみの出勤をしたり、適切な配置数になるように工夫している	午前、午後、土曜日で負担が偏らないように人員配置を適切にしている
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		2	段差等は、対象者に合わせて、課題に取り入れれたり、フォローしたりしている	扉を交換したり、ケガにつながらない対策をした柱の緩衝材、床の張替、裏口の床の補修を実施予定で
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		1	毎日の清掃で清潔を心がけ、プログラムの中で児童にも掃除の練習の機会を作っている 児童自身が本棚から自由に本を選べるコーナーを作った	今後も室内の清潔な環境作りを継続していく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9			毎日の報告書作成時に、振り返りを行うようにしている	毎回の打ち合わせ、振り返り会議を今後も継続していく
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		1	保護者の意見を共有し改善に繋げている	今後も、保護者の意見を会議で共有して業務改善に繋げていく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1			会社のホームページで公表している
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	2			評価結果を共有していくようにする
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			社内で案内されている研修以外に個人で自主的に研修に参加している	それぞれが受講した研修や本を読んで得たことなどを、会議で共有し、支援に活かすことを今後も継続していく
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			定期的に行われたものをスタッフで共有している	今後もアセスメント表を作成し、スタッフが共有できるようにする
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	1	1	保護者がわかりやすい言葉を使用し、具体的な支援を明記するようにしている	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			計画策定会議を行い共有して支援に繋げている	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9			・グループごとに固定せず、他のグループの事をみんなで相談するようになっている ・みんなで相談してアイデアを出し合っている	余裕を持って次月のプログラムが作成できるよう、それぞれのグループの会議の日程を固定していく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			・個人活動に合わせた活動(電車に乗るなど)を取り入れて、外出先でのルールを学ぶなどたくさん取り入れている ・過去のを参考にしながらかぶらないようにしている ・楽しめるプログラムになるよう工夫している ・固定化してしまうプログラムの時は、内容に変化を持たせている	児童の課題に合ったプログラムがより楽しくできるように、課外活動などを多く取り入れていく
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9			個別と集団の課題や支援方法を具体的に支援計画に入れて作成している	

2022年度(令和4年度)あるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			毎日必ず行っている。児童一人一人の近況などの共有を行っているリーダー、サブ、サブサブで業務の分担をしている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			・時間がしっかり取れないことがあるので、片付けや記録の時間にも話せるようにしている ・状況別になるが、細かく分かりやすく伝えるようにしている ・全員参加の話し合いがなかなかできないので、会議ノートを作っている	・午前中の支援後に、すぐに午後の支援の準備があるスタッフもいるので、隙間の時間を大事にして効率的に会議を行っていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			毎日記録を作成し、全員が見られる場所に掲示して共有している	記録がわかりやすく共有しやすくなるための工夫をしていく
	20	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9			定期的にもモニタリングを行っている	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			管理者や、支援担当者など、子どもの状況を把握している者が参加している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			相談支援事業所との関係を深め連携している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9			医療機関の担当医や子育て支援センターの専門士からの連絡を保護者から詳しく聞くようにしている	医療的ケアが必要な児童は利用していないが、情報として詳しく聞くように今後もしていきたい
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9			医療的ケアが必要かどうかをMSWと連携してりする機会を持っている	同上
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			保育園、幼稚園、小学校との児童の情報共有を行い連携を図っている	今後も関係性を深めて連携を図っていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			小学校からの問い合わせに丁寧に答え相互理解を図っている	今後も小学校との連携を深めていきたい
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9			連携を深め、研修を受けている	研修の機会を増やしていきたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4		5	幼稚園や保育園との職員間の連携を取っている 公園やおでかけで地域との交流を図っている	コロナが落ち着いたら、触れ合える機会を作っていきたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3		6		地域の子育て会議に参加できるようにしていきたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			送迎の際、受け入れ振り返りの際、子どもの状況を聞き、支援課題に組み込んで相互理解を図っている	グループの振り返りの際にも児童の様子を聞いたりしていきたい
保護者	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	1	2	ペアトレは行っていないが、都度、相談・助言を行っている	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		1	契約時に説明したり、閲覧できるファイルを作っている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			一人1人違ったそれぞれに合った計画を作成し、分かりやすい言葉で具体的に作成し、丁寧な提示をしている	今後もそれぞれの児童に合った計画作成を行い、保護者の希望を取り入れて同意してもらえらる計画を作成していく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			連絡帳アプリでの質問相談には即、返事をするようにしている。面談が必要な場合も近日程に機会を設けている	今後も、相談しやすい関係性を築き、保護者の負担を減らしていけるように信頼関係を築いていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2		7		グループ指導の保護者同士が連携できる機会などを考えていきたい

2022年度(令和4年度)あるレインボーDuo谷塚駅前教室

【児童発達支援】事業所における自己評価結果(公表)

口への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9			34と同様	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			月に一度おたよりを発行し、連絡や報告。児童の様子がわかりやすいように、グループごとに記入して保護者が読んで楽しいものに変えた	今後も、読みたくなる内容のおたよりを発行していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9			個人情報にかかわるものの持ち出しはしないようにしている 鍵付きのロッカーに保管している	個人情報保護により一層気をつけていく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			分かりやすい言葉や事例をあげて意思の疎通ができるように配慮している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2		7		コロナの影響もありできていない 保護者の希望があれば検討していく
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9			毎月、火事、地震、水害などの避難訓練を行っている	保護者にもっと詳しく周知できるようにしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			午前は月1回で行っている。午後はグループ指導で行うようになっている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9			アセスメント時に聞き取りを行い把握し共有している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9			検査資料を持参してもらい、細かく保護者から情報を得て、テーブルを離すなどの対応を徹底している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			その都度報告し、会議で共有して未然に防ぐようになっている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			会社の研修に全員参加している	最低、年に一回の研修を行っている
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		1	虐待研修で話し合い、保護者に口頭で説明するようになっている	スタッフ間で共有していく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。